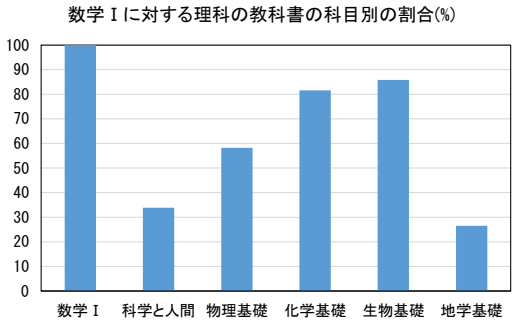
高等学校での地学教育と地理教育

現行の学習指導要領では，高等学校理科科目の履修条件は，「科学と人間生活」2 単位と基礎科目 4 領域から 1 科目 2 単位の計 4 単位を履修するか，または基礎を付した科目 2 単位を 3 領域選んで 6 単位を履修するかのどちらかとなっている。

文部科学省がまとめた 2015 年度に使用する予定の高校教科書の採択状況のデータ（渡辺, 2015a, b）を用いて，「地学基礎」の履修状況を推定した。必修科目である数学 I の教科書採択数に対する各理科関連科目の割合をみたのが図 2-1 である。この図から全高校生のおよそ 25 %が「地学基礎」を履修していると推定される。同様の傾向は，日本学術審議会（2016）の答申でも示されている。「科学と人間生活」でも地学の内容が扱われていることから，約半数の生徒が地学を高等学校で履修していと考えられ，履修者は以前より大幅に増加していると思われる（佐藤，2003）。また，図 2-1 から同様の手法で求めた地理 A 及び地理 B をあわせた全高校生の選択の割合は 54%で，高等学校ではおよそ半分の生徒が地理を学習していると思われる。したがって，文系・理系ごとの履修科目の選択傾向から，地形などの自然災害に関する学習は，高等学校では地学と地理を通じて，ほぼ全生徒が学習することが可能であると思われる。



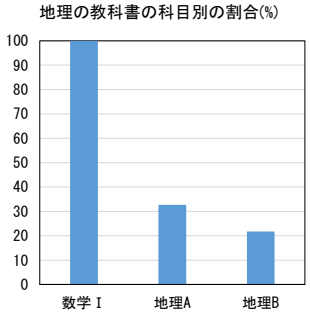


図 2-1　数学 I に対する理科及び地理の科目別の教科書採択の割合

引用文献

佐藤昇, 2003：高等学校での地学教育の現状，4-10，科学研究費成果報告書「地学教育の活性化をめざす「情報地学」のカリキュラムとその教材の開発」，88pp，大阪府教育センター

日本学術会議, 2016：これからの高校理科教育のあり方, 16pp.

渡辺敦司, 2015a：15 年度高校教科書採択状況－文科省まとめ(上), 内外教育, 6389, 時事通信社, 10－16.

渡辺敦司, 2015b：15 年度高校教科書採択状況－文科省まとめ(中), 内外教育, 6391, 時事通信社, 8－13.